

→Up Cell なので何も加えず、ペレットとして取り出している。

田邊：ヒトへの応用となると defect によって細胞数が異なってくるのではないか。

→そうなると思いますが検討中です。

田邊：一疾患一申請でしょうか。

(佐藤) →広い幅で持たせたいので軟骨の損傷グレードでは Outerbridge 分類で Grade III 以上の症例に設定する予定。

田邊：何例で、また有意差はでそうか。

(佐藤) →5 例では難しいかと、10 例で考えている。コントロールを置かないので有効性評価は難しいかもしれません。

田邊：プライマリーに安全性、セカンダリーが有効性にするのがベターであろう。

(以上敬称略)

3. 総合討論

本事業に関する活発な意見交換がなされました。

4. 事務連絡

3月24日中間評価

5. 閉会

以上

